

# Forest通信 令和5年 2

No.408

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭

Photo

高尾山のいきものたち

## ヒレンジャク (レンジャク科)



頭の毛が後方に尖っている鳥。体長が18cm程で、「冠羽」と呼ばれる頭頂部の羽毛が後に伸び、顔の周りは赤褐色、額から冠羽にかけて黒い過眼線がある。腹は白っぽく、羽は灰色で青灰色や赤い部分があり、尾の先端が赤い。

夏はシベリアで過ごし、冬を越すために日本に渡ってきて、10~5月頃、平地から低山、公園などの林で見られる。食性は雑食性だが、日本では主にヤドリギなどの果実類を食べる。ヤドリギは半寄生植物で、樹木の枝に根を張り、養分をもらって生きている。その種子を食べた糞は粘着性があり、木の枝に付着し、そこで発芽する。ヒレンジャクは食べ物を得ることができ、ヤドリギは子孫を残すことができ、お互いに助け合って生きている。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)

## 高尾陣馬特別警戒

(高尾山から富士山を望む)

高尾山では、東京都、八王子市、警察、消防、東京神奈川森林管理署及び当センター等で組織する「高尾陣馬特別警戒連絡協議会」において、危険防止、山火事防止等を図ることを目的として毎年大晦日から元旦にかけて夜間のパトロールを行っています。今回は、東京神奈川森林管理署と当センターからあわせて7名の職員が出動し、担当区間である高尾山山頂から小仏城山間の登山道を警戒しました。

パトロール中は、深夜にもかかわらず手に持った照明を頼りに山頂を目指す多くの登山者とすれ違い、同区間で約430人を確認しました。昨年の175人に比べると、天候にも恵まれたせいか大きく増加していましたが、高尾山では日中においても転倒や滑落などによる遭難が多く発生していることから、特に足元が見えにくい夜間の登山はより注意が必要です。今回は特に危険行為や遭難、火の不始末などは確認されませんでした。

明け方（日の出時刻：午前6時50分頃）には数え切れないほどの登山者が山頂に訪れ、雲による影響も少なかったことから初日の出を見て歓声を上げていました。また、遠方には雲一つなく富士山の姿がはっきりと姿を現し、今年が皆さんにとってよい年であることを切に願ってやみません。（久）



(パトロールに参加した職員)



(無事に初日の出を迎えた瞬間)

# 驚き桃の木 高尾の記

NO.11



## コクサギ2題

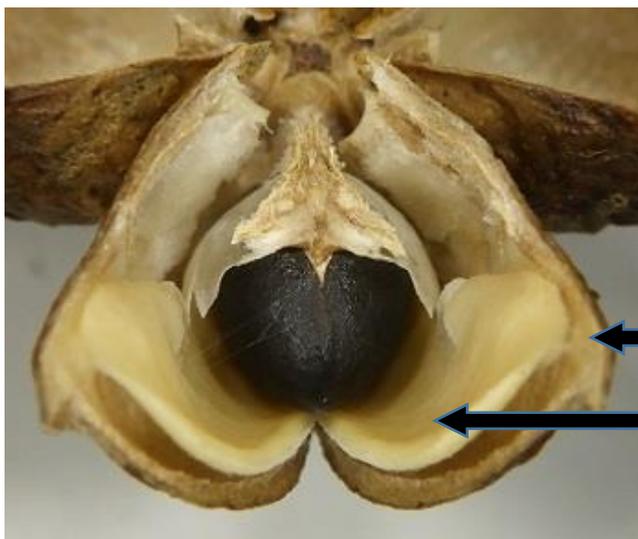
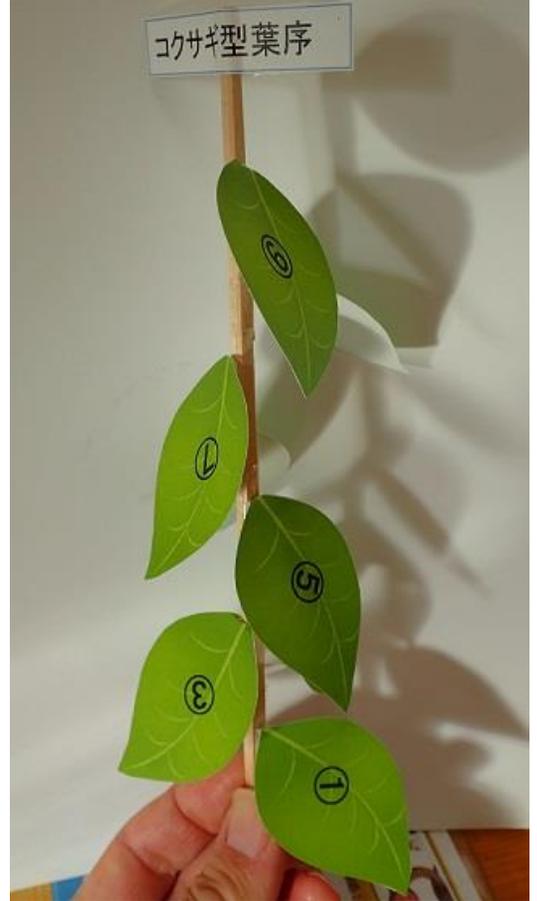
高尾山でもよく見かけるミカン科のコクサギについて、驚きの仕組みを2題。

(その1) 2枚ずつ互生するコクサギ型葉序は有名ですが、上に立ち上がる枝に付く葉は四方に交互に出ているように見えます。コクサギ型葉序を一枚の葉と隣の葉の出る方向が作る角度で示すと

「0° → 180° → 0° → 180°」の順番で繰り返されるように思っていますが、実際には

「180° → 90° → 180° → 270°」の順番で繰り返し四方に出て、枝が横向きになると上と下の2葉の葉柄がねじれて2枚ずつの互生に見えるようになるのだそうです。枝の向きに応じて太陽の光をより多く受けるための仕組みだと思われますが、口頭ではわかりにくいので観察会などでは模型を作って解説しています。

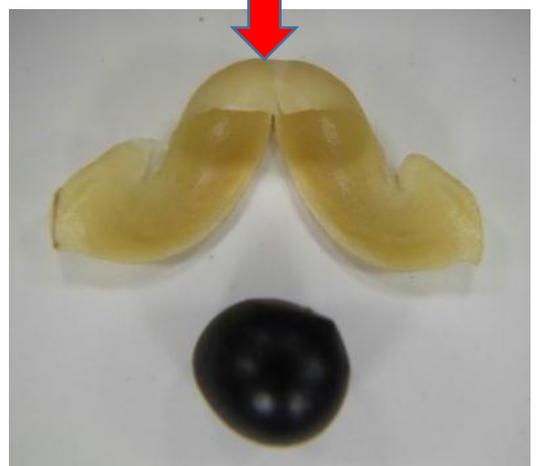
(その2) 秋になると貝のような殻(外果皮)が十字に並ぶ実をつけます。採取して机の上に置いておくと外果皮が乾燥で徐々に開き、ある時点で中に入っている黒い種子が薄茶色の内果皮に押される形で勢いよく飛び出します。目を近づけすぎないように注意しながら飛び出す決定的瞬間を見るため待ち構えるのですが、その瞬間はいつも突然訪れしばしば見逃してしまいます。飛び出す速さも一瞬であり、このためデジカメでの動画撮影も困難を極めます。飛び出した内果皮をつまんでみると、写真の赤い矢印の部分が屈曲部分となってまるで強い板バネのようにになっているのがわかります。外果皮が徐々に開き、ある瞬間に折りたたまれた内果皮バネが外果皮から外れて種子もろともバネの力で勢いよく外へ飛び出すのです。種子を少しでも遠くに飛ばして生育地を広げるための驚きの仕組みです。(枝)



外果皮

内果皮

板バネの様な屈曲部分



# 公募イベント 森林カレッジⅣ

令和5年1月14日（土）に森林カレッジⅣが実施されました。当日はコロナ禍の影響等もあり30名中20名の参加にとどまりました。しかし厳冬期としては比較的暖かなコンディションでの開催となりました。

今回は最終回で、しかも炭焼体験ということで参加者のほとんどは未経験です。まず煙突を取り付け、材料の竹材を窯詰めして窯の隙間を落ち葉で埋めていきます。次に窯の上部にトタン板で蓋をしてから土で埋めていきます。そしていよいよ火入れとなります。約20分前後で蒸気機関車のような煙が勢いよく出てきたら一段落です。あとは煙の温度を確認しながら窯締めを待つこととなります。

今回は残念ながら窯出しは実施出来ませんでしたが、事前に焼いておいた炭を参加者の皆さんのお土産として差し上げました。（磯）



## 森林教室

### 中野区立 江古田小学校

年が明けた1月17日（火）、今年第1回目の森林教室は、中野区立江古田小学校5年生80名を高尾山日影沢園地に向かえての実施となりました。当日は、朝から寒さが厳しく、ドラム缶の半割焚き火台で時折暖を取りながらの森林教室となりました。

午前中は、6班に分かれての森林観察です。途中の小川で夏とは違い、それほど冷たくは感じない沢水に手を浸けながら川の生物を探索しましたが、厳冬期に入り沢ガニや水生昆虫等は冬眠に入っているようで、生き物を見つけることは出来ませんでした。その後も人工林や天然林の植物相等の話や緑のダムとしての森林の機能の話聞きながら、1時間半程観察しました。

午後からは一段と寒さが厳しくなりましたが、森林学習と丸太切りを2グループに分かれて交互に実施しました。森林学習は、管理棟の中で森林の役割や林業についてのお話し、丸太切りは、キャンプ場の広場でスタッフの指導を受けながら皆楽しそうに切っていました。途中からどんどん寒くなり足先等かじかむ様な一日でしたが、令和5年最初の森林教室を無事に終えることが出来ました。（瀬）



# 春



日程 令和5年5月20日(土)

内容 講義「森林の見方」

体験 森林散策

講師 元日本森林学会

会長 桜井 尚武 氏

日程 令和5年7月22日(土)

内容 講義「森に学ぶ～森づくり  
ことづくり ひとづくり」

体験 草刈り作業など

講師 元東京農業大学教授 宮林 茂幸 氏

# 夏



## 2023年度 森林カレッジ 春・夏・秋・冬

### 参加者募集中

年4回参加いただきます。  
それぞれの季節を通じて森林に  
ついて学習&実習をします。

**応募は4月7日(金)まで**

# 秋



日程 令和5年10月14日(土)

内容 講義「木の成長としくみ」

※講義のみとなります

講師 元多摩森林科学園園長

三輪 雄四郎 氏



# 冬

日程 令和6年1月13日(土)

内容 講義「森林の恵みと共に  
～炭焼き、そして森林の香り～」

体験 炭焼き作業

講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

詳細はセンターホームページをご覧ください。

ホームページ主催イベントページ→



#### 編集後記

2月に開催される関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会において、当センターもスライド部門で日ごろの成果を発表します。局HPに掲載されますのでご覧下さい。



ミツマタ

#### Forest通信 NO.407

発行：林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先  
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689

E-mail:ks\_takao\_postmaster@maff.go.jp

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html

